

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270101825		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	大森台ケアセンターそよ風(すずらん)		
所在地	千葉県千葉市中央区大森町250-1		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成26年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大森台ケアセンターそよ風では「希望を実現しよう」を理念に掲げ、御利用者様一人一人のニーズに応じて、「イチゴ狩りに行きたい」「お酒を飲みたい」「髪を外で切りたい」等の要望に応じて、外出、外食、ドライブ、欲しい物品の買い出し等の対応を行っております。
また、介護の状態が重くなってきても食事を楽しめるように、嚥下が困難な御利用者様にはおせちのソフト食等を取り入れて少しでも楽しみのある生活を送って頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「希望を実現しよう」をホーム独自の理念に掲げ、利用者一人ひとりの希望の実現に前向きに取り組んでいる。具体的な取り組みでは、今年度個別対応に力を入れ、一人ひとりの希望や要望に合わせ、道の駅やショッピングセンター、外食などにお連れし、一人ひとりの要望に確実に応えていけるように取り組んでいる。また全体的な取り組みにおいても、食事内容の工夫を図り、咀嚼やく嚥下困難な利用者に対してソフト食の導入を図る等、工夫を凝らした取り組みも確認できた。今後に向けては、家族をホームにお呼びし、利用者と一緒に過ごす時間を多く確保する事や全体での外出活動に力を入れていく事を検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで、運営理念であるそよ風憲章をスタッフ全員で唱和し、理念の理解と共有をすることで、介護サービスが提供できるようにしている	法人の理念である「そよ風憲章」を各フロアミーティング時に唱和しているほか、ホーム独自に「希望を実現しよう」をテーマとして掲げており、利用者一人ひとりが過ごしやすい環境の構築を通じて、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をする時には、近隣の住民の方と挨拶を交わすことや野菜を頂く等のお付き合いをさせて頂いている。保育園の方から行事のお誘いやセンターに挨拶に来られることがある。	近隣の住民とも顔なじみとなり、日常的にあいさつを交わしたり、保育園から行事のお誘いを受けたり、ホーム主催の行事に踊りのボランティアを招く等、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	短大生の実習の受け入れや運営推進会議で自治体や民生員の方に向けて認知症の啓発に努めている。町内会の防災訓練等にも参加して情報の交換と交流を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様に質疑応答をして頂くことやセンターの運営状況の報告、行事報告、研修報告、事故報告等を行い、サービスの向上を図っている	運営推進会議には、地域包括支援センター、民生委員、自治会長、家族の方の参加を受け、2か月に一度定期的実施している。会議では、ホーム側からの運営報告のほか、参加者一人ひとりから意見を伺い、サービス向上につなげていけるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所等に書類提出をする時に、相談・助言をして頂いている。民生委員や地域支援センター等にも協力を仰ぎ、連携を行っている 今年度から介護相談員も来所してくれる	市の担当課との連携では、変更手続きに必要な書類提出時や集団指導、実地指導等を通じて相談や助言を受ける等、協力関係を築きながら運営を進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会を設置して身体拘束の廃止の実施に努めている。	ホーム内において、身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会を管理者、ケアマネジャー、リーダーを中心に構成している。職員に対しては申し送りやミーティングを通じ、スピーチロックに対す意識強化を図る等、不適切な対応につながらないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県が主催している「千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修」の受講をし、虐待の防止に努めている。受講後は職員に虐待防止に向けてのケア方法をセンター内での勉強会でやっている。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成見後見人制度の研修に参加する機会を設けている。実際に利用されている方もおり、必要に応じて活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項や契約書の読み合わせをして、時間をかけて説明をおこなっている。不安や疑問点をお伺いし、理解して頂けるように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様からは、運営推進会議や面会時、居室担当者会議等で相談や要望をお聞きして、ミーティングやホーム内での勉強会等の場で話し、運営に活かせるようにしている。	家族からの意見については、運営推進会議時のほか、担当者会議出席時、面会の際に直接意向や要望等を収集している。意見や要望が表出された際には、ミーティング等を通じ職員に周知し、サービス向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長と定期的に個別面談をする機会を設けて職員の意見を聞きとっている。ミーティングや勉強会の場でも話し合うことができる。	職員からの意見の収集に関しては、センター長が職員と定期的に個人面談を実施し、現状や意向等を収集する機会をもっている。ホーム内においても管理者、ユニットリーダーが中心となり職員に声を掛け、現状の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員は自己実績の評価を考課表に記入し、それを基に面談を行う。契約・パート職員は契約更新時に面談を行っている。人事考課により、昇進、昇給への機会が設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は、支社やセンター内の年間計画に沿って実施している。社外研修では、身体拘束、救命救急などの研修を受講している。研修後は報告書を作成して、他職員も観覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加したり、他事業所に見学や交流会をする機会がある。月1回、支社内でのグループホーム会議がある。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず御本人様と面談を行い、その中で要望・不安感の思いを受け止め、傾聴するように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様からのサービスを利用するにあたっての悩みや問題等の相談に応じている。場合によっては情報の提供や助言を行い、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者様と御家族様のそれぞれのニーズを伺い、必要に応じて訪問診療や訪問看護、リハビリ等のサービスの導入を検討して解決に向けての対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年の経験や知識を持つ人生の先輩として敬意、食事や散歩、洗濯物たたみ等の日常生活を一緒に行うことを通して、生活を共にする者同士の絆を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様へ担当者会議や行事への参加を促すことで御本人様との繋がりを持って頂くようにしている。毎月送付している近況報告書や来所時に気付いた点を伝えることやアルバムを見て頂くことで、御本人様の様子や変化を知って頂くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの御友人や知人の方から電話や手紙、来所があった場合には、御本人様へ取り次ぐように心掛けている。場合によっては間を取り持つ支援も行っている。	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、知人、友人の来訪の受け入れ、年賀状のやり取り、年始に自宅に戻り家族と過ごす等、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて職員が間に入り、御利用者同士での良好な関係が築けるように支援している。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の御家族より手紙を頂いたり、転居された御利用者様の元へ面会に伺うことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言動も把握するように努め、定期的にあセスメントや担当者会議を行い、御本人や御家族の希望や意向を伺うようにしている。意思疎通の困難な方は、御家族から情報を聞いて希望を汲み取るようにしている。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、ご利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所する前の担当ケアマネや御家族等に生活歴や環境を伺い、情報の収集を行うようにしている。入所後も御本人や親族、御友人から話を聞くように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や排泄、健康状態など日常の生活全般に関する記録を行い、個々の生活リズムや日々の変化について把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に御利用者様の状態をアセスメントして情報を集め、担当者会議では御本人様や御家族様、ケアマネ、職員、場合によっては病院関係者等で話し合いを行い、ケアプランを作成するようにしている。	利用者の課題や状況をアセスメントにおいて収集し、担当者会議において家族、職員の意見を収集しケアプランに反映している。ケアプランで掲げた目標の達成度や利用者満足度等についてはモニタリングの中で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や些細な状態の変化を介護日誌や個別でケース記録に記入している。ケアプランの作成や支援等に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じて外食や、ドライブ等を行っている。御本人の状態によっては、訪問理美容、訪問マッサージ、訪問看護、福祉用具のレンタル・購入などのサービスも使っている。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の定期総会に参加している。傾聴や習字、介護実習生等のボランティアの受け入れを行っている。運営推進会議には民生委員にも出席して頂き、情報交換に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外部のかかりつけ医は基本的に御家族様の対応で受診されている。身体の変化があった場合には情報提供書を用意持参して頂いている。御利用者様によっては月2回往診医が入って連携している。	医療機関との連携では、ホーム提携先医療機関2か所と連携し、月2回往診が受けられる体制を確保している。提携先医療機関とは24時間連絡が可能であり、突発的な体調変化時においても迅速に対応できる体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回医療連携で訪問看護が来所した場合には、健康状態を伝えるようにしている。状態の変化に対しての相談・助言をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前や退院前には病院関係者と情報交換を行い、御家族様にも同行して頂いている。入院中も状態を聞き、早期退院へ向けた相談を行っている。御利用者様が慣れない場所でのストレスや混乱を軽減して安心感を持って頂けるように面会に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応、看取り対応に関する指針」に基づき説明を行っている。ターミナル時には、御家族様・医師・看護師・職員等で話し合いの場を設けて連携している。	重度化や終末期のあり方については「重度化した場合の対応、看取り対応に関する指針」に基づき説明し、同意書を交わしている。終末期をむかえた際には、主治医、訪問看護、家族、職員を交え今後の方針について再度協議することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救命救急講座を職員が受講している。事務所には、救急時のマニュアルや病院の連絡先を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施している。火災設備点検の事業者が来所した時に火災報知器や水消火器等の使用訓練を行っている。災害用の備蓄品や食料品を準備している。	災害時に備え、日中や夜間を想定した避難、通報訓練を年2回実施している。災害に備え、ホーム内では水、食料品、ヘルメット、軍手等を備蓄している。近隣との協力体制については、運営推進会議を通じて協力を呼び掛けている。	

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会で接遇マナー研修を行い、言葉遣いや対応に配慮するようにしている。	利用者への声かけについては、スピーチロックが無いように、身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会から職員に周知している。また、外部の講師を招いて接遇マナーを実施する等、不適切な対応につながらないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	午前中のお茶の時間は好きな飲み物を選んで頂くことや週1回にヤクルトの配達で好きな飲み物を選んで頂いている。御本人様からの要望はできる限り実現するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者によって居室やフロア等で自由に過ごして頂いている。散歩やレクリエーションはその日に希望に沿って参加して頂いている。起床や食事もその方の生活リズムや体調によって時間を変えることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用してカットや髪染めをされている。希望によっては、理美容まで外出されることもある。男性は髭剃りをされたり、女性の場合は人によって化粧水をされて整容している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時には御利用者と職員と一緒に食事を召し上がるようにしている。出前をとることや、食べたいものの希望があればその都度メニューに入れている。	食事の準備では、盛り付けやテーブル拭き等、利用者も可能な限り手伝う事が出来るように支援している。食事を楽しむ支援では、行事の際にお弁当の注文や納涼祭での焼きそば作り、外食や出前等も行い、食事の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて、常食、刻み食、ミキサー食、ソフト食、おかゆで対応している。水分摂取が難しい場合には、トロミ粉を水分に混ぜることやゼリー飲料、寒天を召し上げて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。個別に、入れ歯洗浄、歯ブラシ・口腔用ティッシュで歯の洗浄をしている。歯のトラブルがあった場合には、訪問歯科で対応している。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を個別に記入して、排泄のパターンを把握している。御本人からの訴えの場合や職員からの声掛けでトイレ誘導している。トイレでの座位が難しい方でも、トイレで排泄が出やすい場合には職員が2人で介助している。	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を排泄表によりチェックし、声かけによりトイレに誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝食にはヨーグルトを提供しており、排便の出にくい方には寒天を召し上げて頂き工夫している。毎週1回ヤクルトに来て頂き、好きな飲み物を選ばれて召し上がられている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は職員が介助に付き添って、御本人の希望や体調に合わせて行っている。皮膚に弱い方は専用の石鹸やシャンプーを用意し、季節によってはゆず湯や菖蒲湯を用意して支援している。	入浴に関しては、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週2~3回入浴できるように支援しているほか、入浴中は職員が介助につき、安全性にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休みたいときにや疲れているときには、居室やフロアのソファにて休息がとれるようにしている。個々の生活リズムで就寝・起床時間に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬用のファイルを用意し、御利用者様の薬表をまとめている。薬の変更の際には、往診記録に記入をして職員が薬の情報を共有するとともに、ケース記録に服用後の状態に変化があれば記入をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の希望に沿って「DVDをレンタル」「外出・外食対応」「外で理美容」を実施している。「お酒」や「たばこ」も主治医や御家族様と相談して対応している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩や周辺で外気浴を行っている。個別対応では「映画鑑賞」「道の駅までドライブ」等の対応もしている。季節に応じて「イチゴ狩り」「桜観賞」「外食」等のイベントを行うことがある。	天候の良い日にはホーム周辺の散歩や外気浴を取り入れているほか、外出行事としてお花見や美術館、イチゴ狩り、外食に出かける等、定期的に戸外に出かける事が出来るように支援している。	

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を手元にとっておきたい方は、お金をお財布にに入れて所持している。また、センターでお預かりしているお金の中から希望に沿って日用品の購入や外出の際の支払いを支援することがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族から絵手紙や近況の手紙が届くことがある。電話も自由に使うことができ、御家族様や御友人の方と連絡をされることがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のフロアは、照明の明るさ・室温・音の管理に気をつけて快適に過ごせるように心掛けている。その時々に応じて写真や書道の展示の張り替えを行い、観葉植物を配置して居心地のいい空間になるように工夫している。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮されており、行事や季節に合わせて装飾したり、掲示をして生活感や季節感を採り入れてゆったりと居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファをおき、好きな場所でテレビ鑑賞や談笑されている。ベランダや玄関前にはベンチや椅子をおいて過ごしやすいようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、使い慣れた家具や家電製品、衣類を持参して頂いている。昔作成した絵などの作品や家族の写真を飾って馴染みのある空間を作るように心掛けている。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを持参いただき、利用者が居心地よく過ごせるように職員が整理整頓に努めるなど支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター内の廊下、トイレ、浴室等には手すりの設置がしてある。居室の前には表札やドアには室名が書いてある		